

2017年度 開発教育指導者研修 授業実践報告

【実践者】

授業者氏名	高田 裕行	学校名	新島村立 式根島中学校
教科・科目	社会科	対象学年（人数）	3年 1組 （ 3名 ）
実践年月日もしくは期間（時数）	平成29年 10月 ～ 11月 （ 7時間 ）		

【実施概要】

1. 単元名(活動名)：「社会参加」を通して社会的リスクがもたらす 地域コミュニティの問題解決を目指す社会科授業の開発 ～いわきNTにおける住民対立と難民問題を事例にして～					
2. 教科・領域との関連性： 難民問題を「当事者」として捉え、最終的には、実際に行動をする「社会参加」の視点を取り入れ学習を進めた。1時間目から6時間目までは社会科の授業として学習を進め、7時間目は生徒会活動と関連させて実際に募金をするという社会参加活動につなげていった。	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		
4. 単元の目標（評価の観点を意識して設定）： ・ 難民発生の背後にある社会的リスクや社会構造、難民となった当事者の思いや立場を理解し、さらに難民を受け入れることで発生するメリット、デメリットについて様々な視点から考え、自分の意見を発表することができる。 ・ 人口移動と地域変容を捉える学習を通して地球的規模の様々な問題は「どこでも」起こりうる問題と自覚し、グローバルな視点から問題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。					
5. 単元の 評価規準例	①知識及び技能	難民発生の背後にある社会的リスクや社会構造を理解し、難民に関する必要な情報を知識として身につけている。			
	②思考力、判断力、表現力等	難民問題を当事者として捉えることができる。また、様々な視点から考察し、自分なりの解決案や意見を述べるすることができる。			
	③学びに向かう力、人間性等	授業を通して学んだ知識を活かし、実際に社会生活の中で具現化することができる。			
6. 単元設定の理由 （児童/生徒観、教材観、指導観）	<生徒観> 社会科授業では、生徒がこれから生きる社会生活の中で直面するであろう様々な問題を取り上げ、それらを論理的かつ科学的に考察できるよう「なぜ」の問いに基づいて授業を展開してきた。普段は明るく元気な生徒で活発な様子であるが、大人数の大人に囲まれると普段との違いから消極的になってしまう時があるので、指名やグループ活動を通し、参加型・体験型の授業を構成し主体的に学ぶ事ができるようにしたい。また、思考を伴う問題に差し掛かった時、班での意見交換や教師からのヒントをもとに、生徒が多様な考え方や意見に触れられるようにする。さらに幅広い視点から想像力をもって学習を深められるよう発問や発言を工夫し、多面的・多角的な見方・考え方を養わせたい。 <教材観> 本単元は、身近な事例を通して地球規模の社会問題(難民問題)に「当事者」として向き合うことをテーマに問題解決の糸口を探していく構成・教材になっている。 例えば、身近な事例として、1時間目では、東日本大震災による原発事故の影響で起きた「いわきNT地区の住民対立」を取り上げ、「自分の意思と反して強制的に移動を強いられた」という事例が日本国内でも現実的な社会問題となっており、難民問題にも通ずるものとして認識させる。 また地球規模な視点として、3、4時間目はAARJAPANによる出前講座を実施した。シリア難民という設定で、生徒の保護者にも参加していただき、本物の家族で難民を追体験することで、難民問題の複雑さや難しさを実感した。さらに、当事者として何が出来るかを考えさせ、生徒会活動の一環である募金活動を島の行事である保小中合同学芸会の場で行うことで、学校・地域社				

	<p>会・家庭を巻き込んだ社会参加活動まで広げることができ、私たちの難民問題として当事者意識を高められるよう工夫した。</p> <p><指導観></p> <p>第5章「地球社会と私たち」は、国際社会に対する理解を深めさせ、国際社会における我が国の役割について考えさせるとともに、人類の一員としてよりよい社会を築いていくために解決しなければならない様々な課題について探求させ、自分の考えをまとめさせることを主なねらいとしている。この単元は学習指導要領(4)私たちと国際社会の諸課題の(ア)「世界へ平和と人類の福祉の増大」(イ)「よりよい社会を目指して」に当たる部分であり、世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには、国際協調の観点から、国家間の相互の主権の尊重と協力、国際社会における我が国の役割について考えさせる。また地球市民であるという観点から課題を設けて探究し、生徒が様々な社会的事象を多面的・多角的に考察し、日常生活や身近な事例を通し、貧困、地球環境、エネルギーなど多様な側面から世界、日本、地域の課題と現状、論点を把握し、社会参加という視点を忘れることなく、自己の問題として主体的に考え、判断し、実践できる力を育成したいと考えている。</p>
--	---

7. 展開計画 (全7時間)

時	ねらい	活動	教材
1	東日本大震災について振り返り「なぜいわき NT 地区で住民対立が起きたの」様々な立場から理解することができる。	10分程度、東日本大震災のDVDを視聴し、振り返りをした後、毎日新聞の記事として発行された「いわき NT 地区の住民対立」について取り上げる。旧住民が新住民に対して車にペンキをかける等といった問題に着目し、なぜ対立が起きたのかについて、約2万人の人口が流入したことで起きた地域変容を旧住民と新住民の双方の立場や意見、インタビュー記事を通して理解させる。その際、デメリットばかりではなく、人口増加が引き起こした「震災バブル」などメリットにも目を向けていく。さらに社会的リスクにより「自分の意思と反して強制的に移動を強いられた」という事例が世界的な問題であるという点に気づかせながら難民問題につなげていく。	<p>①DVD「オムニバスドキュメンタリー3. 11 大震災記者たちの眼差し」</p> <p>②毎日新聞記事 被災者帰れ、住民と避難者のあつれき(2013年5月24日)</p> <p>③いわき NT の課題 - インタビューを通じて見えてきた報道されない住民対立の実実 - (授業者作成)</p>
2	難民と国内避難民、移民との違いを理解する。	難民・国内避難民・移民の違いをフォトランゲージの手法を用い、(説明書付きの)写真を仕分けすることで生徒が難民の定義を確定させていく。そこには、東日本大震災の写真やシリア難民の写真、よりよい暮らしを求めて外国に移った人々などの写真を提示する。さらに難民条約、JICA の映像集を用いながら世界地図を提示し、難民の発生地域や難民の数などを理解させ、国外にも社会的リスクにより「自分の意思と反して強制的に移動を強いられた」という事例があることを認識する。	<p>① JICA 10分映像集「国を逃れる人々」</p> <p>②難民・国内避難民・移民の写真(授業者作成)</p>

3	避難のシミュレーションを行い、紛争発生から避難までを模擬的に体験することで難民の境遇や苦難を理解することができる。	AARJAPAN による出前授業を実施した。また生徒の保護者を学校に招待し、本物の家族で難民シミュレーションを行った。シリア難民という設定で紛争の発生から、荷物のリストの精選、パスポートがなく空港で理不尽な金銭の要求をうける等、難民キャンプまでの過程を追体験させることで難民の境遇や苦しみに迫る活動をした。さらに難民キャンプに入れた場合と入れなかった場合のシミュレーションをしたり、家族ごとの事情を追加条件として提示したりして、自分の家族だったらどのような判断を下すのかなど、難民問題の難しさや多様さを実感することができた。	①AAR JAPAN による出前授業（2時間実施）
4	難民キャンプのシミュレーションを行うことで、難民が何年もの間不安を抱え、仕事や学校など日常的に生活していることを理解する。		
5 本時	なぜ難民の受け入れが積極的に行われないのか、いわきNTの事例を参考にしながら受け入れによるデメリットと受け入れたことで起こりうるメリットを難民の歴史から考え、難民問題の本質と可能性について理解することができる。	「新島村住民3000人が災害のために式根島へ強制移動することになった」というシナリオを設定し、受け入れに起きる懸念点や受け入れることの利点を話し合う。懸念点としては、治安悪化や財政負担等があげられる。これらの問題点をいわきの事例と関連させて理解させていきたい。利点としては、サッカー日本代表監督の「ハリルホジッチ」や研究者「アインシュタイン」映画俳優「ジャッキーチェン」等の難民出身者が社会に貢献して現在を生活していること、さらに人口増加による経済メリットや地方創生等にも触れ、難民の可能性について理解させていく。	① JICA 10分映像集「難民：各国の難民受け入れ状況」 ② 「Mundi」JICA 2017年6月号 難民支援 故郷の夜明けを夢見て
6	私たちは、何ができるかを考える。	難民の可能性を生かしながら共生できる社会を形成するために国としてどのような対策を考えるべきか話し合う。また自分たちに実際にできることとして何があるか難民支援協会の取り組みを参考に考えさせ、学芸会の募金活動へつなげていく。	① 難民支援協会 2015年度年次報告書
7	募金活動を通して資金を集め、日本にいる難民に何ができるか考え、実際に行動することで社会に参加する態度を養う。	式根島では、保小中合同で11月に学芸会が開催され、毎年、生徒会を中心に募金活動を行っている。昨年は熊本への支援金として約10万円を寄付した。今年度は、日本国に逃れて来ている難民に「難民支援協会」を通して寄付をする。ただ、寄付金を渡すだけでなく、募金の3割のお金は、生徒自身が島内で買いものをし、難民の方々が何に困っているのか考えさせながら商店でリストを基に買い物を実施した。その後、教師が難民支援協会を訪問し、生徒が買った食料やTシャツを難民の方々に渡した。そこでの写真や難民の方々からのコメントを動画や写真におさめ、授業で振り返る。自分たちでも社会問題の解決に「参加」することができる社会的有用感を生徒に与えることで、当事者意識を高めることができた。	①11月11日に開催される学芸会で実施する。それまでに難民についてのチラシ等を島内の商店に貼り呼びかけをする予定。

8. 本時の展開

過程・時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
<p>導入 (12分)</p>	<p>○JICA 10分映像「各国の難民受け入れ状況を視聴する」</p> <p>T:各国の難民の受け入れ状況はどうでしたか？ S:あまりよくない。賛否両論がある。 S:ドイツなどでは住民会議を行っている。 T:日本はどうだと思う？予想してみよう。 S:受け入れていると思う。 S:受け入れていないと思う。 T:実は日本はG7の中で難民受け入れ貢献度は最下位です。認定率は0.3%です。</p>	<p>●10分映像「各国の難民受け入れ状況を視聴する」を視聴し、各国の難民の受け入れ状況について理解させる。</p> <p>●G7における難民の受け入れ貢献度と世界難民地図を提示し、日本の難民受け入れはG7の中で最下位であることを理解させる。</p>	<p>・JICA 10分映像集「難民：各国の難民受け入れ状況」</p>
<p>MQ:なぜ日本は難民の受け入れに積極的でないのだろうか？</p>			
<p>展開 (33分)</p>	<p>○MQに対する仮説を考える。 S:遠いから。テロとかあるから。 S:日本語が難しく、溶け込めない。 S:難民が来るとデメリットが多いからだと思う。 T:もし、難民を受け入れる立場に立ったらと仮定して、次の問いを考えてみよう。</p> <p>file①「新島と式根島の場合」 新島村で大規模な災害があり、新島住民が式根島への強制移動を命じられました。みなさんは、式根島に住む住民です。新島から避難者が来た場合、式根島に住む人々にもたらされるメリット・デメリットは何か、これまでの学習を踏まえ考えなさい。</p> <p>S:消費が盛んになってお店が繁盛する。 S:民宿の後継者が増える。 S:体育の授業でサッカーができる。 S:交通事故が多くなりそうだ S:新島住民と対立が起きるかも T:次は同じ日本人ではなく、難民を受け入れると仮定して同じように次の問いを考えてみよう。</p> <p>file②「②日本社会の場合」 日本で難民を受け入れることになりました。難民を受け入れることで日本人または日本の社会にもたらされるメリット・デメリットは何か、これまでの学習を踏まえ考えなさい。</p> <p>S:いろいろな文化が入ってくる S:優秀な人材を育てられる S:消費が盛んになり景気が回復する。 S:少子高齢化を克服できる S:言語や宗教、文化による衝突がある S:テロの可能性が高まる S:差別が起きる S:仕事なくなる S:税負担が大きくなる</p>	<p>●仮説をグループで考えさせる。その際、東日本大震災の住民対立やAAR JAPANの出前授業での既習事項を踏まえ議論させる。</p> <p>●新島と式根島は同じ行政区にあり、新島には3000人が住んでいる。一方式根島は約500人が暮らしており、高齢化率は全体の45%を占めている。ここでは、自分の住んでいる島の実情を踏まえながら考えさせる。</p> <p>●新島と式根島の例を踏まえて、次は日本で難民を受け入れた場合のメリットやデメリットを議論させる。その際、人種や宗教、文化の違いなども考慮しながら考えさせる。</p>	<p>・Ipad ・mundi 3月号 (2017年3月 NO42) ・mundi 6月号 (2017年6月 NO45) ・難民支援協会 2015年度年次報告書</p> <p>・Ipad ・mundi 3月号 (2017年3月 NO42) ・mundi 6月号 (2017年6月 NO45) ・難民支援協会 2015年度年次報告書</p>

	○難民著名人について紹介する。 T：この人たちの共通点は何だろう S：難民 S：ハリルホジッチは難民だったんだ S：アインシュタインも難民出身だ	●サッカー日本代表監督のハリルホジッチやジャッキチェーン、アインシュタインやコマネチなど、難民著名人を紹介する。彼らが社会に貢献したことを簡単に説明する。	
まとめ (5分)	○ワークシートに記入する T：難民の可能性を活かしながら共生していく社会を作れないだろうか。ワークシートに記入してみよう。	●ワークシートに記入し、自分の意見を発表する。	

9. 本時の評価

難民を受け入れることのメリットやデメリットを様々な視点から考え、地球市民の一員として難民の可能性を活かしていく社会について自分の意見を持ち、発表することができる。

10. 学習方法および外部との連携

①AAR JAPAN 難民を助ける会

出前授業を依頼した。「もし難民になったらどうする？」という設定でシミュレーションを行った。難民への共感的理解や難民そのものに対する理解が深まった。

②難民支援協会

募金活動の寄付金は難民支援協会に寄付した。また、寄付金の一部で、難民が必要としているものを生徒に考えさせ、島内で買い物（缶詰など）をした。寄付金は教師が届けた。その際、生徒の写真をA3サイズにカラープリントしたものを持参し、難民支援協会のスタッフと日本にいる難民の方に生徒の写真を手にもって写真を撮っていただき、その写真を生徒にみせることで、「顔のみえる募金」を行った。

③保護者

AAR JAPAN の出前授業に生徒の保護者を招待した。実際の家族で難民を想定することで、より現実に近い形で難民を体験できた。

11. 他教員・学校内等で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

<取り組み>

・JICA 出前講座 ・AEFA 出前講座 ・留学生が先生 ・研究授業等

<内容>

国際理解教育は主に社会科と英語科を中心に行っている。出前講座の際には島内にチラシを配布し、学校のみならず島全体で国際理解について深めていっている。JICA の出前講座ではベナンとカンボジアの研修員からそれぞれの国について理解を深めることができた。今後は授業を通して同じ年齢の外国人と日本や世界の課題を考える場を与えられる活動をしていきたい。

参考資料：

- ・ JICA 10分映像集「国を逃れる人々」
- ・ JICA 10分映像集「難民：各国の難民受け入れ状況」
- ・ m u n d i 3月号（2017年3月 NO42）
- ・ m u n d i 6月号（2017年6月 NO45）
- ・ 難民支援協会 2015年度年次報告書